

## ポジティブシンキングとルサンチマン

第12期 OB 芦澤 友也

OB・OGのみなさま、現役生のみなさま、ご無沙汰しております。第12期の芦澤友也と申します。私は去年の4月に日本アイビーエムの系列の会社に就職し、約半年間に及ぶ社内研修を修了した後、現在はクライアント先の銀行で常駐SEとして勤めております。仕事内容は、メインフレーム用のOSを操作したり、その上でミドルウェアを動かしたり、あとはただひたすらに文書作成です。みなさんにとっては、少々馴染みがない領域かもしれません。メインフレームはレガシーなシステムながら、非常に奥深い領域で、システムの構造を理解するのに苦心しております。その傍ら、仕事以外では、QVC マリンフィールドで野球観戦したり、幕張メッセでのイベントにたくさん参加したり（どちらも下宿先から自転車で行きます(笑)）、二郎系のラーメンを開拓したり、定期的にゼミの同期に会って遊んだり、社会人1年目としてはなかなかプライベートを充実させることができている。

仕事の話に戻りますが、メインフレームをとりまく技術は、実は数十年前からほとんど変化していません。そのため、仕事に従事するに即して、日々不安に思うことがあります。すなわち、この技術はいつか失われるのではないかと、いくらシステムを理解したところで、こうした知識に対する需要は年々失われていくのではないかと、という不安です。(実際のところ、システムに対する信頼性が重視される業界は、依然としてこれからもメインフレームを使い続ける訳なのですが)。しかし、そこで、こうした不安から、自己を正当化したり、失敗を周囲の環境のせいにしたりする、所謂ルサンチマン状態に陥ってはいけません。幸い、私はこの類の不安をある種の危機感として昇華しつつも、決してルサンチマンを抱かないように心がけています。いや寧ろ、日々の不自由さをポジティブに捉えることができていると自負しています。例えば、(勤務地が駅から遠いことを逆に利用して)英会話を聴きながら運動する習慣をつけるだとか、(同じ勤務地に配属された同期が少なく、あまり話せないから)お昼休みに読書をするのを心がける、といった具合に。些細な事ですが、継続することで毎日が少しずつ有意義なものになります。それは兎も角として、あまり気を張ってはいは疲れてしまうので、今までどおりプライベートは充実させますよ。来年は、よりフットワークを軽く！



第12期・第13期千葉会（著者は左奥）